

北海道ぎょれん広報

なみまるくん



7
2021
No.393

[うみ・なかま コミュニケーション]

北海道
ぎょれん



特集

第59回 北海道漁業協同組合長会議
第72回 ギョレン通常総会

みきさんの あさかな コラム

札幌で活躍する2人の管理栄養士の方に、旬の魚をテーマとしたコラムを交互にご寄稿頂きます。

「あいなめ」

腸内環境を整えるのに、よい食べ物として、発酵食品や食物繊維はおのずと知られています。そのほかはオリゴ糖など、腸内の善玉菌のエサとなるもの。腸内環境を整えるのに、よい食べ物として、発酵食品や食物繊維はおのずと知られています。そのほかはオリゴ糖など、腸内の善玉菌のエサとなるもの。

オリゴ糖という甘味料のイメージが強いかもしれませんが、玉ネギや果物全般にも多く含まれているので、普段の食生活にも取り入れやすく、嬉しいところ。そして、忘れてはならないのが、お魚に含まれる脂肪酸のオメガ3！EPAやDHAといった不飽和脂肪酸は免疫機能を高め、血液をサラサラにし、認知機能の低下にも効果があるということもわかっています。

北海道の短い夏がやってきました。夏休みに入る数週間前から子供たちのわくわくは始まっていることでしょう。子供の頃の私は、母から言われたお使いも父が釣ってきた魚の処理の手伝いも、普段は嫌で嫌でたまらないのに、この時期だけは気持ちが高揚して不思議と進んでやれるんです。中でも父が自慢で釣って帰ってきたあいなめ（北海道ではあぶらこといいますが）は、漢字で書くと愛する魚の女「愛魚女」と、ずいぶん素敵な漢字があてられています。この魚拓作りの手伝いは今でも鮮明に記憶に残っています。新聞紙、墨、筆、和紙、ちり紙！言われる前に用意して、名アシタレントを務めます。魚拓をとった後、綺麗に洗うまでが私の役目。その後は次々にお刺身、から揚げ、煮付けと母が仕上げ、家族で舌鼓を打ちました。一緒に食卓に上がっていたのは、たっぷりの野菜料理と具沢山のお味噌汁。昭和40年代の食事がまさに腸を鍛えるものだったと今更ながら実感します。



坂下 美樹

管理栄養士/調理師/製菓衛生師/現在、北海道新聞くらし面「今日の1品」執筆中。「道新文化教室」開催。HTBイチオシ出演中、ホクレンGREEN等の料理制作など。料理教室はコロナ対策のうえ好評開催中。ぎょれんと共にレシピの制作多数。

【うみ・なかま コミュニケーション】

なみまるくん

北海道ぎょれん広報誌
Hokkaido Gyoren Magazine
July 2021 No.393



01 みきさんのおさかなコラム
「あいなめ」

02 特集1
第59回 北海道漁業協同組合長会議

06 特集2
第72回 ゑれん通常総会

08 特集3
ぎょれんが取り組む環境対策
廃網リサイクル

10 特集4
道漁青連が令和3年度 第1回地区会長会議を開催しました

11 頭すっきり!! ブレイクタイム

12 大漁祈願!
浜のほっとニュース

13 みなさんのお便りでつくるページ
なみまる おたより箱



表紙の写真
東しゃこたん漁協 美国漁港です

熟練した手さばきで、ういの身(生殖巣)を傷つけないように殻を割って、丁寧にスプーンで取り出していきます

第59回 北海道漁業協同組合長会議



第59回北海道漁業協同組合長会議の冊子表紙より(斜里町ウトロ)

に事務手続きを含め事業利用者の負担が増大することがないよう円滑な事業活用のために適切な措置を講じること

③競争力強化型機器等導入緊急対策事業において、対象機器の拡大と併せ、被代替機器を必要とする要件を撤廃し、効果的な設備投資の推進を図るとともに、同感染症が常態化されている漁業経営環境の改善のため、漁業分野において、令和2年度補正予算にて措置された経営継続補助金に準じた制度を継続すること

④担い手育成支援の一環として、昆布漁業等における陸上共同作業施設の設置や漁労作業の負担軽減のための省エネ・省力化の設備・機器の開発を進めること

(5) 漁協経営の支援制度の創設

①コロナ禍における取扱減少に伴う漁協の事業手数料減少に対する経営支援対策を講じること

②漁協が所有する自営工場、製氷施設、冷凍保管施設等において大きな負担となっている電気料の軽減など、漁協経営のコスト削減対策を措置すること

③漁協段階における地域独自の販売力強化に向けた取り組みを支援すること

④コロナ禍における漁業生産力の強化や水産物流通を促進するための共同利用施設に係る充分な予算確保を図ること

⑤前浜での急激な水揚げの低迷や人手不足により困難な経営を強いられる漁協に対し、業務の効率化・省力化推進に係る助成制度の創設など

6月17日(木)、札幌市の水産ビル7階第二会議室で「第59回北海道漁業協同組合長会議」が開催されました。昨年同様、新型コロナウイルス感染症の影響で書面決議となり、会議では5月17日(月)の「北海道漁業協同組合長会議実行委員会」で審議された3つの決議案と特別決議として「コロナ禍、コロナ収束後を見据えた緊急対策の拡充強化」が上程され原案通り決議されました。

ここでは、決議内容についてお伝えします。

特別決議案

コロナ禍、コロナ収束後を見据えた 緊急対策の拡充強化

- ① 新型コロナウイルス感染症に係る緊急対策の継続と拡充強化
新型コロナウイルス感染症の早期収束の実現とともに、令和2年度に措置された持続化給付金や経営継続補助金等の施策に加えて、漁業に対する経営・流通・金融等各種支援の継続・拡充を図ること
- ② 漁業者への収入安定対策の拡充強化
漁業共済制度において、補償水準の引き上げなどの制度改善と掛金追加補助の維持とともに、漁業施設共済について、拡充強化のために定置網に係る制度の抜本的見直しを図ること

どによる支援を行うこと

(6) 道産水産物の魚価・消費流通回復に向けた支援策の拡充強化

- ①流通滞留魚種の目詰まり解消のため、特定水産物供給平準化事業の大規模な予算措置と併せ、切れ目ない事業活用を可能とするために基金事業化を図ること
- ②同感染症の影響による水産物需要の減退を踏まえ、魚価維持・流通安定・輸出事業拡大支援策の拡充強化などの道産水産物の販売力強化や魚食普及活動への支援を拡充強化すること

(7) 漁業者・漁協に対する金融支援措置の継続と拡充強化

- ①新型コロナウイルス感染症収束まで、漁業者・漁協等に対する運転資金の無利子化・保証料免除の予算措置を講じること
- ②新型コロナウイルス収束後の出口対策として、金融円滑化に資する長期運転資金の創設及び近代化資金の法定償還期限を超過する期限延長について、柔軟な対応を図ること
- ③漁業近代化資金の貸付限度について、現在の経済環境に応じた融資限度額の見直しのほか、沿岸漁業者の経営形態に則した漁船トン数制限の見直し、実耐用年数に見合った償還年数の延長等、円滑な運用に向けた措置を講じること
- ⑧ 本道水産業における担い手・外国人材等の確保対策の強化

①外国とのビジネス往來の早期再開に向けて、同感染症に対する万全の防疫対策を構築すること

- ②積立ぶらすについて、補填財源の確保とともに、無給餌養殖等における加入要件、強度資源管理タイプの対象魚種の見直しや、同タイプにおける払戻水準の引き上げ措置の継続を図ること
- ③同感染症の影響により減収となった漁業者のための収入安定対策として、積立ぶらすの要件を満たさない漁業者への支援措置を検討すること
- ④TAC対象魚種の拡大やIQ導入等資源管理強化に対応した新たな所得補償対策の導入を図ること

(3) 漁業者へのコスト削減対策の拡充強化

- ①漁業経営セーフティネット構築事業について、国の負担割合の更なる引き上げ、恒久予算措置化及び加入要件の緩和を図り、対策の発動の際は現行方式(7中5)から一定価格を上回った場合の上昇分を補てんする方式に変更すること
- ②漁業用ガソリンの免税措置の導入と漁業用燃油税制の免税・還付措置の恒久化を図ること
- ④ 漁業者への漁業経営継続のための設備投資支援
①浜の担い手・後継者確保対策として「浜の担い手漁船リース事業」の継続と予算の大幅拡充及び恒久化を図るとともに、制度改善による弾力的な運用を行うこと
- ②水産業成長産業化沿岸地域創出事業については、計画的な設備投資に対応すべく継続かつ十分な予算措置と基金化を行うとともに、事業費下限額の引き下げ、補助対象漁具等の要件緩和並び

とともに、外国人受入れに係る支援措置の拡充強化を図ること

- ②外国人技能実習制度について、複合的漁業経営を営む沿岸漁業の特性を十分考慮した上で、漁船漁業と養殖漁業の区分を撤廃するとともに、対象漁業・魚種の拡大、期間受入や兼業漁船(複数魚種・複数作業)、複数地区での実習を可能とする等、活用しやすい制度へ改善を図ること
- ③新規漁業就労者の雇用や育成支援体制の拡充、漁業技術力向上のための支援の拡充を図ること

決議案第1号

福島第一原発事故の早期収束とアルプス処理水処分に係る対策

- (1) 福島第一原発事故の早期収束
①福島原発について、廃炉に向けた作業を最優先に進めるなど、国の責任で早急な収束を図ること
- (2) アルプス処理水の海洋放出反対
①漁業者・国民の理解が得られていない中での処理水の海洋放出は行わないこと
- (3) 海洋放出の決定および実施された場合の風評被害防止対策
①海洋放出の方針決定により当面生じる風評被害と、将来、実際に海洋放出が行われた場合に生じる風評被害に、国の責任においてどのように対処するのか、明示すること
- (4) 将来に渡るアルプス処理水の安全確保対策
①海洋放出されるアルプス処理水の安全性につ

いて、どのように国内外に説明し、担保していくのか、国の責任において具体的かつ明確に示すこと

(5) 漁業継続に向けた対応策

① 福島県ならびに近隣被災県の漁業者、そして全国の漁業者が安心して子々孫々まで漁業が継続できるための方策を、国の責任として明確に示すこと

(6) アルプス処理水の保管継続および新たな保管・処理方法の検討

① 半減期効果を念頭に置いた敷地内における更なるタンク増設による保管継続や新たな処理・保管方法等の検討など、あらゆる可能性について国の責任で継続的に検討・実施していくこと

決議案第2号

漁業実態に即した水産政策の改革実現と資源回復・増大対策の拡充

(1) 本道漁業の実態に即した次期水産基本計画の見直し実現

① 次期水産基本計画の見直しについて、漁業者・現場の意見を充分に反映させ、地域・経済・漁業経営に資する政策を展開すること

(2) 当事者である漁業者の意見を踏まえた国の「水産政策の改革」の推進

① 規制改革推進会議等における議論をもとに、「漁業・漁協の在り方」の検討が進められるにあたり、沿岸漁村で実際に漁業を生業としている漁業者からの意見に耳を傾け、漁業現場に混乱を引き起こさないようにすること

増大対策の推進

① 水産資源の回復・増大を図るため、増養殖事業・栽培漁業における種苗生産等の技術開発や施設整備に必要な予算を最大限に確保すること

② 来遊数量が減少している秋鮭について、種苗生産体制の維持・安定を図るため、各種対策により効果的な資源回復措置を早急に講じること

③ 昆布、さんま、いかなど資源が低位にある魚種や大量斃死の発生した養殖ほたてについて、資源減少等の原因究明に努めるとともに海域の特性に合った実効ある資源増大対策を講じること

④ 海域状況に適合する放流事業等、ほたて、かき、あさり、うに、つぶなど、各浜にて自ら取り組んでいる栽培漁業において、効果的な資源増大対策の推進と支援措置を拡充すること

⑤ さくらますやにしんなど海域の特性の高い回遊魚種について、継続的な資源増大対策への支援を行うこと

決議案第3号

海洋環境の変動に対応した漁場環境対策の推進

(1) 水産多面的機能発揮対策事業の更なる拡充強化

① 水産多面的機能発揮対策事業（藻場干潟、水域監視等）について、事業の拡充並びに予算の復活・恒久化を図ること

② 改正漁業法の施行に係り、衆議院の附帯決議に基づき、本道漁業の実態を十分に考慮した上で浜に不利が生じることの無いよう運用に万全を期すとともに、漁業許可・海面の利用等に係るガイドラインにおいて、国より漁業者に説明してきたことを反故にしたり、実務を行う漁協に負担をかけないこと

③ 未活用となった漁場への企業の参入・撤退などにより、漁場の荒廃や地域漁村の振興に影響を招くことがないよう、配慮した制度運用とすること

(3) 新たな資源管理における魚種・漁法の特性を踏まえた管理方法の検討

① 新たな資源管理システムの導入にあたっては、漁業者の理解・納得を得ることを大前提とし、地域経済、漁業経営への影響を踏まえ慎重な取り進めを行うこと

② 新たな資源管理システムの適用については、ほっけ、真だら、ぶり等の魚種毎にMSY（最大持続生産量）に基づく評価基準による資源管理が魚種特性として適切か否か、漁業者が納得しうる精度の高い資源評価を必須条件として、自主的資源管理措置も選択肢にいった魚種や漁法の特性を踏まえた検討を行うこと

③ 漁獲枠の減少により、休漁・減船等を余儀なくされ、漁業・漁協経営が影響を受ける場合は、必要な支援措置等を講じること

(4) 本道魚種の実態に即した適正な資源管理の推進

① すけとうだらのTAC管理において、予測を

(2) 自然災害対策の強化による漁業施設被害の軽減

① 防災ダムの設置等、流木の河川や海洋への流出未然防止対策の更なる拡充強化を図ることも迅速な撤去処理体制を確立すること

② 台風や低気圧被害による定置網・養殖施設、荷捌き所、倉庫等の漁業施設への被害や海岸護岸崩落に対し、補修や強化整備の早期実施や迅速な支援、海岸浸食保全措置を講じること

③ 河川・湖沼改修、農地崩落、トンネル工事、農薬・農業系廃棄物による漁場環境への影響を緩和・回避するための充分な対策を講じること

(3) 有害生物漁業被害対策の拡充強化

① 有害生物漁業被害防止総合対策事業において、サメ、シャチ、ラッコ等にも事業対象範囲を拡大するとともに充分な予算確保を図ること

② トド・アザラシ・オットセイ等海獣類による漁業被害対策として、「専業ハンターの確保」「駆除事業の拡充」等による漁業被害防止体制の強化、「海獣類の生態や被害防止のための調査研究」の拡充強化並びに、海獣類により漁獲物や漁具などへの被害を受けたり、休漁を余儀なくされた漁業者に対する漁業被害補償制度を創設すること

③ ほたて斃死により生産量が大きく減少している中、ザラボヤ被害の原因究明と対策の拡充・強化を図るとともに、ザラボヤ駆除処理に係る支援の拡充を図ること

超える資源の大量来遊への対応として、大量来遊ルールの適切な運用を図るとともに、前年度TAC未利用分の翌期繰越について沿岸漁業に配慮した弾力的運用とその検証を行うこと

② ほっけ（道北系群）の資源管理については、道、道総研の指導のもと、魚種の特性・混獲魚種である実態を踏まえ実施し、着実に資源回復の効果をあげている自主的資源管理を発展させた「北海道スタイル」を基本としたものとする

③ くろまぐろのTAC管理において、適切な本道漁獲枠を確保するとともに、漁獲制限により逼迫した漁業経営を強いられる漁業者に対する支援を行うこと

(5) 密漁・遊漁対策の強化と外国漁船による過剰漁獲対策

① 組織的な密漁を防止するため、道・市町村・警察・海上保安庁等による取締体制の構築や連携強化を図るとともに、密漁抑止のための罰則の厳格な適用のほか、夜間の遊泳・潜水の規制措置を検討すること

② 遊漁によるくろまぐろ等の無秩序な漁獲について、国・道による更なる実効性の高い管理体制を構築するとともに、秋鮭等に係る遊漁者への啓発活動やトラブル防止に向けた制度の構築を図ること

③ 日本海海域するめいかの外国漁船漁獲による資源減少について、取締強化のほか、各国に対し操業禁止、漁法改善等を要望すること

(6) 増養殖事業・栽培漁業等の推進による資源

(4) SDGsの理念に基づいた脱・抑プラスチック・ブルーカーボンへの取り組みの推進

① 河川海洋環境保全やブルーカーボン推進のために、漁業者が実施するプラスチック製品の抑制、再利用、再資源化等の取り組みに対して、プラスチック漂着物の堆積量調査の推進や廃網・FRPの廃船を効率よく低コストで処理が可能となる体制の構築などの支援を行うこと

② 昆布等海藻の科学的知見に基づく評価の向上とともに、資源増大対策を図ること

令和3年度 北海道漁協系統運動功労者表彰

〈代表理事組合長としての表彰〉

後藤 義勝さん

昆布森漁業協同組合 代表理事組合長

大坂 鉄夫さん

根室漁業協同組合 代表理事組合長

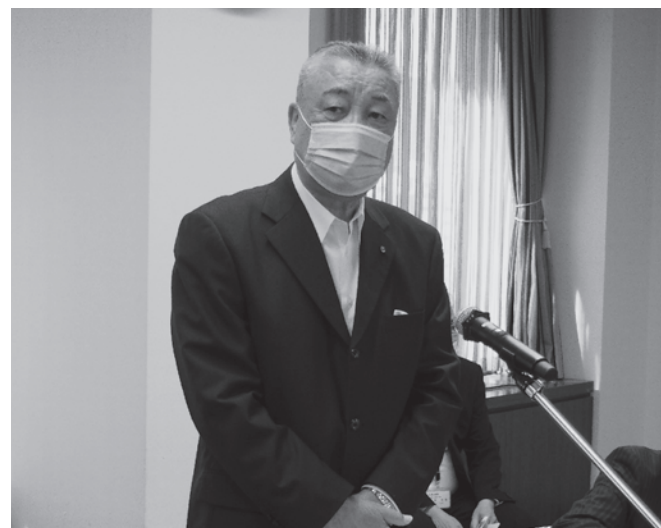
中澤 賢一さん

野付漁業協同組合 前代表理事組合長

〈常勤役員としての表彰〉

山中 弘春さん

長万部漁業協同組合 専務理事



開会の挨拶をする川崎会長

本道漁業の生産量は、昨年実績を上回り百万トン台を確保したものの、秋鮭をはじめ昆布、さんま、いかなど、本道を代表する基幹魚種においては依然低迷が続いています。

このようななか、ほたての回復やいわしの豊漁といった明るい兆しはあったものの、新型コロナウイルスの流行による消費低迷が魚価に影響を及ぼし、水揚げ額は昨年を下回る結果となりました。

川崎会長 挨拶

令和2年度の事業概要

国内においては、外食を中心にマーケットが大幅に縮小し、高級魚や貝類の価格が大きく下落する一方、巣ごもり需要といった家庭内での消費が増加するなど生活様式の変化が顕著となりました。

海外との貿易では、コロナ禍により各国の経済活動が停滞するとともに、通関業務の遅れ等から物流が滞るなど、先行きの不透明感がさらに増えています。

一方、漁政面におきましては、「水産政策の改革」に伴う新たな資源管理方法の導入議論にあたり、本道漁業の実情に即した内容となり、かつ漁業者の納得が得られた上で取り進められるよう、強く要請しています。

また、新型コロナウイルスのまん延による漁業者および漁協の経営支援要請を行い、各種補助事業の実現に至っています。

このようななか、本会の総取扱高は二千三百五億円と前年を下回ったものの、事業利益段階では昨年に引き続き黒字を確保することが出来、税引前収支も四億三千五百万円と計画を上回ることができました。

令和3年度の事業計画

次に事業計画の考え方について申し上げます。

本道漁業の生産量は依然として低水準から脱

特集2 SPECIAL

第72回 ぎょれん通常総会



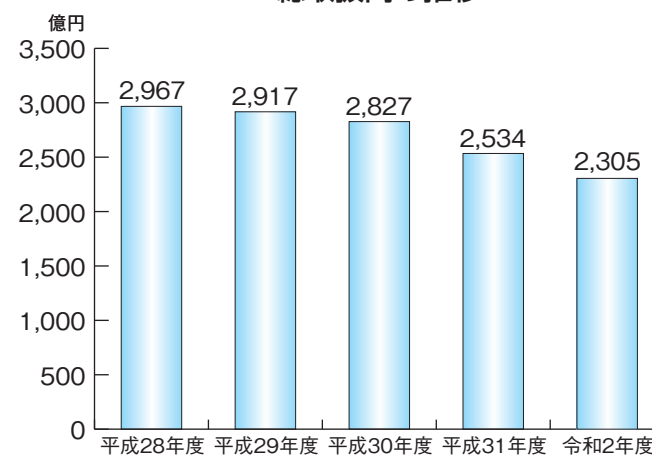
令和2年度の取扱金額は2305億円
令和3年度は北海道漁業の将来を
左右する正念場の年

ぎょれん総会は、新型コロナウイルス感染症予防のため、書面主体での決議となりました。川崎会長の挨拶（次頁に掲載）ののち、信漁連の藤原副会長を議長に選任し、議事が進行了。令和2年度の決算、「令和3年度の事業計画」など、8つの議案が審議され、いずれも原案通り承認されました。

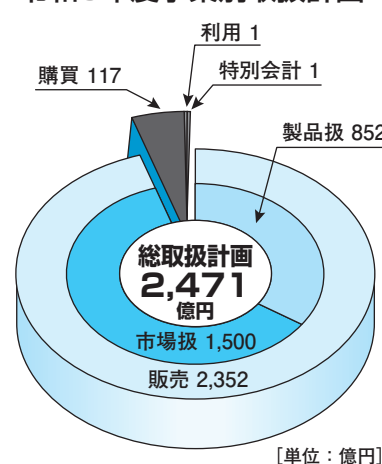


議長を務めた信漁連 藤原副会長

総取扱高の推移



令和3年度事業別取扱計画



議案の説明をする伊藤常務(右)と安田専務(左)

せず、地域経済にも深刻な影響を及ぼしています。

さらには、新型コロナウイルスの猛威に晒され、幾度もの緊急事態宣言により、社会経済活動が大きく制限され続けています。

本会と致しましては3か年の事業推進方向である「夢と活力ある北海道漁業の再興」の2年目として、北海道漁業の将来を左右する正念場の年と位置付け、各種流通対策や販路拡大、コロナ禍に関わる支援策の継続と拡充強化など、総力を挙げて、取り組んで参りますので、会員各位の特段のご理解とご支援をお願い申し上げます。

ぎょれんが取り組む環境対策 廃網リサイクル

ぎょれんの令和3年度事業計画で承認された通り、本年度も本道漁業環境及び資源を未来につなげるため、環境に配慮した資材の利用や漁具リサイクルの推進など、さらなる海洋プラスチックごみ対策の拡充を図っていきます。なかでも漁具リサイクルについて、昨年度から購買部を中心に各漁業資材の廃棄情報を整理し、リサイクルへ向けた事業化を進めているところで、本年度はいよいよ刺網(ナイロン)のリサイクルに取り掛かる予定です。

今月は、この廃網のリサイクルとはどういったものなのか、ご紹介します。

廃網処理の実情

環境省の調査によると漁業系廃棄物のうち、漁網や養殖用の丸籠、発泡スチロール製フローターなどの廃プラスチック類は、産業廃棄物処理業者へ収集や処分を委託するケースが多く、さらに回収後の廃プラスチックは、焼却や破碎などの中間処理を経て、プラスチック原料や製造のためのエネルギーとするなど、有効利用されていますが、一部は最終処分場に埋め立てられています。

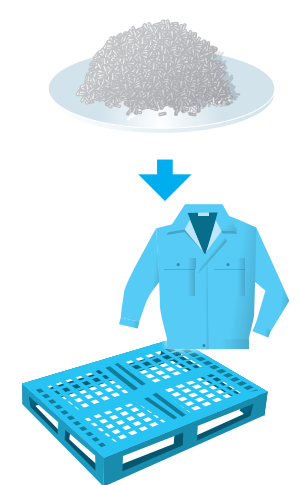
また、中国をはじめとするアジア諸国の廃プラスチックの輸入規制や運賃などの値上げを受け、国内の廃プラスチックの処理費用が増加しており、漁業経営への影響が懸念されています。

ちなみに漁業系廃棄物は、事業者自らの責任において適正な処理が必要であり、その材質に応じた処理基準に従い適正に処理しなければならぬことになっています。

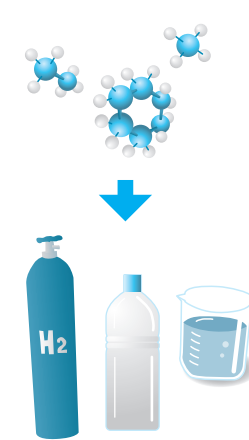
廃プラスチック類のリサイクル手法

では材質に応じた適正な処理とはどういったことか、廃プラスチック類を例にご紹介します。廃プラスチック類のリサイクルについては、長年の技術開発によって現在では多くの手法が実用化されていますが、大きく分けると次の3つになります。

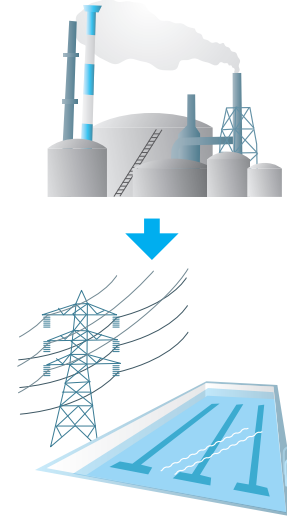
①マテリアルリサイクル(材料リサイクル)
使い終わったプラスチックを溶かすなどして、もう一度原料として使う方法



②ケミカルリサイクル(化学的リサイクル)
使い終わったプラスチックを科学的に分解して、リサイクルする方法



③サーマルリサイクル(熱源利用リサイクル)
使い終わったプラスチックを燃やしたりしたときに発生する熱を、熱源として利用する方法



ナイロン素材刺網のリサイクル

ぎょれんの購買部では、刺網などで多く利用されているナイロン製の網について、一部の漁協にご協力をいただき、リサイクルする事業を試験的に進めてきました。最終的にはこのリサイクルによりペレット樹脂を製造し、自動車やアパレル業界への原材料として、リサイクル化することを目指しています。

さらにナイロン原料以外の養殖籠、定置網などについても技術開発などの情報収集を行っていく予定です。

廃網リサイクル事業の実現に向けて今後の予定と課題を購買部 長谷川部長代理に話を聞きました



購買部
長谷川部長代理

今回私たちが取り進めているのは、廃棄するナイロン製の刺網から再生ナイロンペレットを

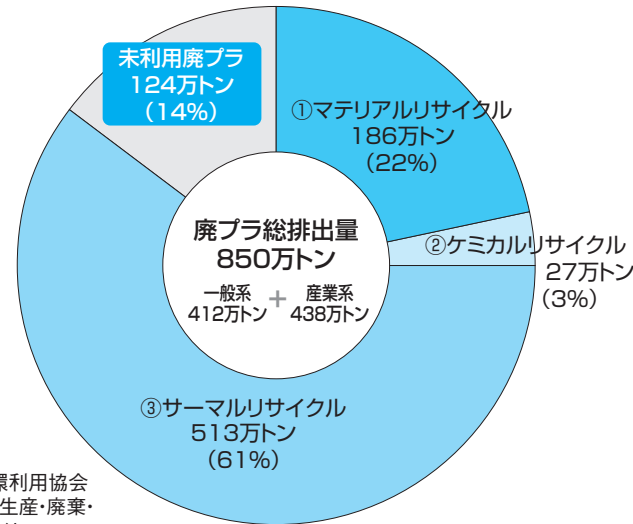
製造するリサイクルとなっています。昨年の一部の地域で試験的に回収・リサイクルを行いました。今年、秋を目途に本格的な廃棄刺網の集荷を予定しています。

ただし、集荷の際、必要な条件として分別が必要になります。ナイロン原料のみリサイクル可能なため、ロープ、岩糸、アバなどのナイロン以外のものは選別して頂きますようお願いいたします。細かく分別を行うことで、よりさまざまなリサイクルを行うことが可能になります。

ぎょれんとしては、環境問題を考慮し、リサイクルの形を作っていきたいと考えており、今後はロープや救命胴衣などを含め、リサイクル品目をもっと多くする取り組みを進めていく予定です。原料の集荷体制をしっかりと組み立て、継続的なリサイクルに繋げていきたいと思っています。

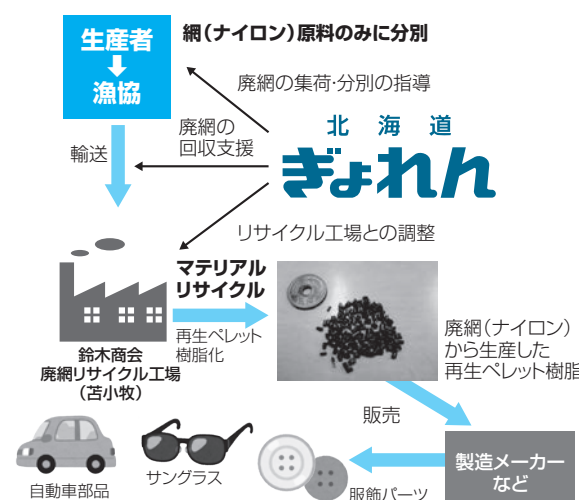
まだまだこれからということで課題は多いですが、疑問点などは購買部にお問い合わせいただき、ぜひ今後の取り組みにご協力をお願い致します。

2019年 プラスチックの排出量と処理処分



一般社団法人プラスチック循環利用協会
「2019年-プラスチック製品の生産・廃棄・再資源化・処理処分の状況」より

廃網回収からリサイクルまでの流れ



シークワードクイズ

7月のテーマ 「昆虫」

7月は「昆虫」がテーマです。昆虫食が最近、話題になっていますね。
(日本は古くから昆虫を食べる習慣のある地域があります。)
図の中で、たて、よこ、ななめの一直線に下のリストのキーワードが読める様になっています。
どこにあてはまるか探してください。すべて探し終わったら、どれにも使用しなかった文字をうまく並べかえてください。

リスト

- | | |
|---------------------------------|---------------------------------|
| ☐ イナゴ | ☐ タガメ |
| ☐ カミキリムシ | ☐ タマムシ |
| ☐ カメムシ | ☐ ナナフシ |
| ☐ キリギリス | ☐ ヒグラシ |
| ☐ クマゼミ | ☐ ホタル |
| ☐ ゴキブリ | ☐ ミズカマキリ |
| ☐ スズムシ | ☐ ミズスマシ |

〈ヒント〉 ○○○とえば、赤。○○○とえば、鉛筆。○○○とえば、長瀬…。あなたは何を連想しますか？

解き方

リストの言葉をマス目の中からタテ、ヨコ、ナナメの一直線に探していきます。文字は逆方向から読んでも、他の言葉と重複して読んでもOK。すべて見つけた後、使われなかった文字をうまく並べかえたと答え(魚の名前)になります。

例題

ア	コ	ン	ブ
キ	ア	サ	リ
ア	バ	ン	サ
ジ	コ	マ	イ

リスト

- ☐ アキアジ
- ☐ コマイ
- ☐ プリ
- ☐ サンマ
- ☐ コンブ
- ☐ アサリ

→

ア	コ	ン	ブ
キ	ア	サ	リ
ア	バ	ン	サ
ジ	コ	マ	イ

〈解答〉サバ

どれにも使用しなかった文字を
うまく並べてください。

解答 となります。

くわしい応募方法は、13ページをご覧ください。
抽選で5名様に図書カードをプレゼントします。

シ	ク	ツ	ス	イ	ガ	ア
ド	ガ	ナ	タ	マ	リ	キ
ウ	マ	メ	ズ	ユ	ユ	グ
ハ	ユ	ミ	バ	シ	ハ	ミ
オ	コ	ウ	ツ	ウ	ヤ	ト
オ	ケ	ベ	ス	バ	コ	ク
メ	フ	ラ	タ	ゲ	リ	ギ

6月号の解答と当選者
イタドリ

(神恵内村) ハ ヤ シさん
(神恵内村) オ グ ベーさん
(函館市) 米田 はるさん
(別海町) 地吹智津子さん
(札幌市) どー もさん

道漁青連が「令和3年度 第1回地区会長会議」を開催



札幌での第59回全道漁協青年部交流大会、道内4地区に分け開催しているブロック別幹部研修会などを通じ、地域や従事する漁業の枠組みを超えた連携の輪を広げます。

組織活動としては、昨年度、新型コロナウイルス感染症の影響を受け中止と

道漁青連の令和3年度活動方針は、昨年同様「①仲間と共に、②漁協・系統と共に、③社会と共に」を基本指針として掲げました。新しい時代に向けた漁業の発展を目指し、受け継がれてきた事業の充実と求められる事業の推進を行うため、「人づくり・組織づくり」に取り組めます。

活動の柱となる学習・研修活動としては、



昨年は協議の結果、中止となりました青年部大会。全道の部員が一同に集い、互いに研さんと交流を深めます

した札幌での「漁師さんの出前授業」は、6月実施の予定は中止となったものの、時期を改めた実施に向け、今後も協議・検討を進めていきます。

また、来年度開催予定の全道漁協青年部大会は、第60回の節目の年となることから、大会内容の充実に向け、本年度から準備や検討を進めていくこととなりました。

6月1日(火)、ぎょれん本所第3会議室で、令和3年度北海道漁協青年部連絡協議会(漁青連)の第1回地区会長会議が開催されました。

今年の会議は、新型コロナウイルスの感染拡大により本道では緊急事態宣言が発令されるなかでの開催となり、感染拡大対策として各委員長はWEBでの参加となりましたが、昨年度の業務報告ならびに本年度の事業計画などが協議され、承認されました。



漁師さんの出前授業では、海に接する機会が少ない札幌の子どもたちへ、漁師の仕事内容や水産物の魅力を伝えています

間違いさがし

間違いは5つです。

※右と左の絵には、5カ所の異なる点があります。
さあ、見つけてください。
(印刷のズレや汚れは関係ありません。)



※答えは13ページにあります。

編集部からのお知らせ

皆様からの便り、写真、イラストをお待ちしています！

次の①～③を明記の上、ご応募ください。抽選で5名様に図書カードをプレゼントします。

- ①なみまるおたより箱への投稿（お便り、写真、イラスト等）や、広報なみまるくん7月号への感想・ご意見など（※150字程度まで）
- ②11ページのシークワードの答え
- ③住所・氏名・年齢・電話番号

〈宛先〉7月20日までに送ってください。

（郵便）〒060-0003

札幌市中央区北3条西7丁目1番地
北海道ぎよれん 総務企画部 広報担当

（FAX）011-242-3543

（電子メール）info@gyoren.or.jp

※「なみまるおたより箱」には①からご紹介します。ご応募いただいた方の個人情報は、図書カード進呈や、お便り、写真、イラスト等の掲載（氏名、年齢、市町村名）にのみ使用いたします。写真やイラストは、返却できませんのでご了承ください。

11ページの間違いさがしの答え



編集後記

北海道で一番過ごしやすいと言われる季節ですが、なぜかモヤモヤします。コロナ禍も2年目となり、何事もすっきりしません。ここが、我慢の正念場なのでしょう。とは言え、我慢のし過ぎはよくありません。おいしい魚を食べたり、ウォーキングをしたり、自分の好きな事を取り入れて上手に気分転換しましょう。

（藤江）

プロならば 仲間と命を一番に ライフジャケットを忘れるな

公益社団法人 北海道海難防止・水難救済センター

みなさんのお便りでつくるページです。

なみまるおたより箱



ボケてきたと言われたくない。手先の仕事ならまだ何とか…。

（八雲町 吉田三郎さん 86歳）

おさかなコラム勉強になります。BQでたべたいです。

（神恵内村 ハヤシさん 38歳）

6月14日より、定置網の鮭の仕事が始まりました。今年の漁のようはどうか？気になります。また、コロナワクチン早く2回目終り、また、もとの生活にもどれること、願っています。

（浦幌町 鮭のおばさんよりさん 60歳）

news

浜のほつとニュース

大漁祈願！

小樽

4月下旬から始まった後志管内の小女子漁は水揚げ累計が約200トン（昨年885トン）で終漁となりましたが、本年度も道外からの引き合いが強く、単価は終始高値で推移しました。6月に入ってからほうに・なまこ漁が順次解禁となりました。うにの身入りは良好で、なまこも昨年に比べ高値で推移していることから、浜は活気づいています。前浜が豊漁となることを祈念します。

室蘭

春定置網漁は終盤を迎えています。今年は本鱒が昨年以上の水揚げとなりました。近年は水温が上がり、まぐろやぶりなどの姿も見られます。一方、6月18日からは、噴火湾地区で毛がに籠漁が解禁となりました。7月には太平洋地区の毛がに籠漁、そしてほっき漁も解禁となりますので、今後の豊漁を願うとともに、生産者の皆様の安全操業を心より祈願しています。

根室

貝殻島灯台周辺で操業する棹前昆布漁が1日から解禁となりましたが、初日は強風のため6月2日に初出漁を迎えました。当日は根室内市3漁協に所属する231隻の船団が納沙布岬から一斉に出漁し、水揚げされた昆布は、好天のなか、干場に広げられました。今後、天候に恵まれ豊漁となりますよう祈念します。

留萌

ひらめの水揚げが最盛期を迎え、市場は賑わっています。また各地区で、夏を代表する魚種であるなまこやうにの水揚げがこれから始まり、夏本番を迎えます。一方で、長引くコロナ禍の影響で魚価が不安定な状態にあるため、新型コロナウイルス感染症の早期収束を祈っています。これから気温が高くなりますが、体調管理に気を付け、安全操業ならびに豊漁となることを祈念しています。

函館

6月1日からのするめいか漁に続き、噴火湾地区の長万部から砂原までの各漁協では、毛がに籠漁が6月18日より解禁となりました。水揚げ初日から多くの仲買人が集まり、活気に満ちた入札会が行われました。水揚げは7月10日までと短く、ボイルしたての毛がにはこの時期にしか味わえない逸品です。多くの食卓へ届くよう、今期の豊漁を切に願っています。

釧路

棹前昆布漁が開始となり、いよいよ本格的な昆布シーズンが始まりました。天候に恵まれ、出漁回数が増えることを願います。また、いわしは棒受網漁から始まり、旋網漁も本格化してきます。昨年に比べ型が良いため、このまま順調な水揚げがあることを望みます。一方、春鮭漁は終盤を迎えています。時鮭の水揚げは芳しくありませんが、終盤の水揚げに期待するとともに安全操業を祈っています。

稚内

宗谷管内の全地区でほたて漁の操業が本格化し、利礼地区でうに漁（のな）が解禁となり、浜は一層の賑わいを見せています。一方、7月には管内で昆布漁が解禁となることから、今後さらに浜は活気づいてきます。ようやく夏らしくなり、最盛期に向け今後も天候に恵まれ、安全操業で豊漁となることを願っています。

梶山

6月3日にするめいかが初水揚げされました。昨年より魚体は小さいものの、早く来遊し水揚げ数量がまとまり、直近では発泡で1,500～2,000ケースの上場がされるなど、浜は賑わいを見せています。今後、魚体が大きく豊漁となり、ますます浜が活気づくことを願っています。

日高

春定置網漁は7月中旬までの漁期となっており、現在終盤に差し掛かっています。管内の水揚げ数量は、本鱒が昨年の1.5倍と好調な水揚げとなっていますが、時鮭は昨年の3割程と大きく減少しており、浜からは資源回復を求める声が上がっています。一方、水温が温くなったためか大型サイズのぶりが水揚げされる様子も見られます。終漁までのラストスパートで、時鮭の水揚げ数量が増加することを願っています。

北見

7月に入り、オホーツク地域も夏を迎えようとしています。浜ではほたて漁が最盛期に入りました。たこ漁も本格化するなど夏漁が賑わいを見せており、中旬頃からはオホーツクサーモンの水揚げが始まります。8月にはほっき漁が解禁し、順次水揚げを開始する予定です。今後も益々の豊漁と安全操業を心より祈願しています。

いつも「なみまるくん」を楽しみにしています。時々掲載されていた「ひとり居酒屋はじめました！」のコーナー、6月号が最終回とあり寂しく感じました。コロナ禍で、家で料理をすることが多い今、面倒だと思われがちなの魚料理を身近に感じられる情報を幅広く発信してくれることを期待しています。

ひとり居酒屋はじめました！のタイトルを見て、思わず顔がにたり、うなずきました。私は一人料理教室と言って2～3時間で3、4品作って友人や妹にラインしています。友人にラインを通して材料とか調味料のアドバイスをして、お料理を楽しんでいます。

（札幌市 田中富子さん 66歳）

コロナで外で食えることが少なくなりました。お家ではお母さんがいろいろ考えています。今月は生ウニに初めてチヨウセンします。どんな味かな？

（札幌市 もえちゃんさん 8歳）

6月20日からウニ漁が始まります。採れたてのむきたてのウニが食べたいですね。

（神恵内村 オグベさん 43歳）

6月号掲載記事に関するお詫びと訂正

前号（6月号）の特集3「漁協購買推進全道地区委員長会議が開催されました」に掲載いたしました石井弘委員長のお名前のふりがなが間違っておりました。正しくはひろむとお読みします。お詫びして訂正いたします。



ほたてときのこのやみつきパスタ

レシピアクセス数
第12位

今回は「ほたてときのこのやみつきパスタ」をご紹介します。
あまりの美味しさにビックリ!
めんつゆとオイスターソースを上手に使って旨味アップ!

2021年はぎょれんのホームページ「おすすめレシピ 365」のアクセス数上位レシピをご紹介します。(上位20位の中から魚種や料理法の重複など考慮して掲載を決めています。*2019年1~12月調べ)

材料

4人分

ほたて貝柱 10個
スパゲティ 400g
塩 適宜
シメジ 1パック
マイタケ 1パック
エリンギ(大) 1個
たまねぎ 1/2個
ニンニク 2片
大葉(千切り) 8枚
オリーブオイル 大さじ3
こしょう 適宜

A

めんつゆ 大さじ3
バター 20g
オイスターソース 大さじ1



作り方

- ① ほたては半分に切る。シメジ、マイタケは石づきを切り落として子房に分ける。エリンギは適当な幅で縦に割く。ニンニク、たまねぎは薄切りにする。
- ② ①を耐熱容器に入れて電子レンジで30秒ほど加熱し、バターを溶かし混ぜておく。
- ③ たっぶりの熱湯を沸かし、パスタの10%重量の塩を加え、記載表示よりも少し短めにゆで始める。
- ④ フライパンにオリーブオイル、ニンニクを入れ香りが出たら、シメジ、マイタケ、エリンギ、たまねぎを加えて炒める。火が通ったら、ほたてを加えて軽く火を通し、②のソースを1/3加えて味をつける。
- ⑤ ゆで上がったパスタを④に加え、④の残りのソースを絡める。塩、こしょうで味を調える。
- ⑥ 器に盛り付け、大葉の千切りをのせたら出来上がり。